



アメリカ人の利用者さんとも…

J氏はアメリカ人。

認知症で日本語を忘れてしまい、今や英語もちぐはぐに…。
昨年の暮れにアメリカより娘が帰国し、娘のことも誰なのか
分からなくなってしまう。

娘はそんな状況を不安になり、市役所へ相談。

しかし、日本語ができないと なかなか受け入れてくれる
施設は少ない。娘と妻はできる限り人と触れ合い、少しでも
楽しい一日を過ごしてもらいたいという思いから

「ケアホーム希望」を利用することとなった。

本人と顔馴染みの関係をつくりたいと自宅へ訪問したり、
短時間の「通い」のサービスから利用を開始したりした。

また、「ケアホーム希望」を利用している人たちには、
J氏を理解してもらった。



J氏は少しずつではあるが、職員や
利用者さんたちとも 打ち解けてきている。
今や ここでの挨拶は「Hello！」



一人暮らしの生活を支えるネットワークづくり

Sばあちゃんは年末から風邪をこじらせてしまい、某病院に入院した。
「認知症があると治療が十分にできない」と、点滴をする際に手と身体を
抑制された。「なんで こんなことするのよ」と、Sばあちゃんは一晩大暴れ。
翌日、在宅療養でフォローして欲しいと言われ退院となってしまった。

一人暮らしのため「ケアホーム希望」の『泊まり』のサービスを利用し、
往診と訪問看護にて在宅酸素療法と点滴等の対応となった。

時々、点滴のラインを抜くこともあったが、顔馴染みのスタッフ、利用者の人たちに囲まれ、
穏やかに療養生活を送ることができている。

「猫のチャオは大丈夫？ 私にとっては家族なんだから心配なのよ…」

Sばあちゃんの心配ごとは毎日 絶えない。

本人の安心を得るため「ケアホーム希望」のスタッフが自宅へ
猫のエサをあげに行きながら近所の人たちとのネットワークづくりをし、
ゴミ出しをしてもらったり、郵便物や宅配物があるときには「ケアホーム
希望」に連絡してもらい、近所の方々の協力を得ながら今の生活を支えて
いる。近所の方には「ケアホーム希望」まで面会にも来ていただき、
Sばあちゃんは日々元気を取り戻している。



『頑張ることの大切さを教えてくれた Kばあちゃん。天国でも幸せに！』

Kばあちゃんは脳梗塞を繰り返し、「ケアホーム希望」を利用したのは
昨年10月から。

失語症と片麻痺があり、えん下障害もあるため 食べることもままならない。
時間をかけてゴックンとゼリー類をやっと飲み込む。脱水予防のため1日に点滴を1,000cc行う。

長年付き合いのあるかかりつけの先生（医師）が往診してくれると、動きは鈍いが手を振り、
うなずく。そんなKばあちゃんは日々衰弱していく中で歯をくいしばり、年末年始には頑張って
自宅へ帰り、満面の“笑顔”だった。

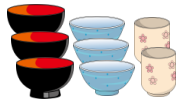
約5ヶ月余り「ケアホーム希望」を利用し、家族に見守られながら大好きな先生（医師）に
看取られ、天国へと旅立った。どんなに苦しくても、頑張って家に帰りたいたいという願いを叶えた
Kばあちゃん、天国で安らかに！



レクリエーション活動の様子



片付けは
私たちがやれば
早いものね



1月に「書き初め」をしました！

今年は“希望”と
書きましたよ



今日のおやつは
私たちが美味しい
おしるこを作るわ



Happy
バースデー!



92歳

祝

1月は、92歳と90歳の誕生日
を迎えた利用者さんと、楽しい
誕生日会を行いました！

おめでとうございます！

長年連れ添った夫婦愛

いつもは、妻の
様態を気にして
顔を見せに来る
夫が手術のため
入院することに。

この日は、妻が
夫を励ましに手術
前に病院へと駆けつけました。

お互いあまり多くは語らないけれど
手と手を取り合って会話しています。



食事の紹介

「ケアホーム希望」の食事は
栄養面はもちろん、目でも
楽しみながらいただきます。

食事は旬な食材を
地元の八百屋さん
などと提携し、届け
てもらっています。
彩ある食事は毎日を
楽しくしてくれます。

